

石川県でシマゲンゴロウ発見

山口 英 夫

筆者は、シマゲンゴロウを石川県輪島市で採集したので報告する。輪島市三井小泉の水田横にある2坪程の三角形の休耕田で、シマゲンゴロウ1頭を採集した。同行していた西原昇吾君も驚き、その後2人で必死に捜したが追加個体は得られなかった。

シマゲンゴロウ 1996年8月19日 石川県輪島市三井小泉 1頭採集 山口英夫

シマゲンゴロウは、石川県のゲンゴロウ科調査報告(井村正行・野中 勝, 1992)に記録されておらず、絶滅の色を濃くしていただけに記録できて良かったと思う。ただ、発生地が何処なのか全く分からず、百万石蝶談会ゲンゴロウ班の今後の調査を待ちたい。

また、富山県では、富山県の昆虫(富山県昆虫研究会, 1979)にはあるものの、その後の富山県の水生昆虫(富山県水生昆虫研究会, 1995)では、度重なる調査でも発見できないことから絶滅種として扱っている。これも再度の調査が必要であろう。

《 参考文献 》

井村正行・野中 勝, 1992. 石川県のゲンゴロウ科調査報告. 翔(97):1-10.

富山県昆虫研究会, 1979. 富山県の昆虫. 545pp.

富山県水生昆虫研究会, 1995. 富山県の水生昆虫. 富山県の水生生物: 71-148.

《やまぐち ひでお 〒930 富山市開726》

石川県未記録のマルケシゲンゴロウの記録

井 村 正 行

ラムサール条約登録湿地の加賀市片野の鴨池を調査していたところ、ライトトラップに飛来したマルケシゲンゴロウ(*Hydrovatus subtilis* Sharp)を採集した。

1996年8月17日 加賀市片野鴨池 8頭採集 ライトトラップ 井村正行

マルケシゲンゴロウの産地は局地的で個体数も多くない(森 正人・北山 昭, 1993)らしく、同定は筆者がゲニタリアによって行った。

発表にあたり、同行協力いただいた富沢 章、松井正人の両氏、現地で多々お世話になっている鴨池観察館の大畑孝二、下野伝吉の両氏に深くお礼申し上げます。

《 参考文献 》

森 正人・北山 昭, 1993. 日本のゲンゴロウ. 文一総合出版.

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

訪花性誘引器で採集した石川県初記録の甲虫

松井 正人

1995年に訪花性誘引器で採集した石川県初記録の甲虫（コメツキムシ科、カミキリムシ科を除く）を報告する。誘引剤にはアカネコール（サンケイ化学）を用い、誘引器には黄色と白色の昆虫誘引器（サンケイ化学）を用いた。

なお、誘引器の準備でお世話になった江崎功二郎、江口元章の両氏、種の同定で大変お世話になった高羽正治、佐々治寛之の両氏に、深くお礼申し上げる。

《誘引器の設置期間と設置条件》

設 置 場 所	設 置 期 間	標高	地況	地上高	誘引器の色
吉野谷村途中谷	1995年5月14日～10月1日	640m	谷底	8m	黄色
吉野谷村雄谷入口	1995年6月10日～10月1日	540m	尾根	10m	黄色
尾口村三又発電所	1995年6月10日～10月1日	700m	中腹	15m	白色

《採集記録》

吉野谷村途中谷

- ズグロヒメントウ Serangium punctum Miyatake 5月27日～6月4日 2頭
 ムナボソヒメマキムシ Stephostethus angusticollis Gyllenhal 5月27日～6月4日 9頭
 セスジトビハムシ Lipromela minutissima Pic 7月1日～7月15日 8頭
 アバツヤムネハネカクシ Rientis parviceps Sharp 9月9日～9月16日 1頭

吉野谷村雄谷入口

- コケシジョウカイモドキ Celsus spectabilis Lewis 6月17日～6月24日 1頭
 ホソデオネスイ Europs temporis Reitter 7月15日～7月29日 1頭
 タテスジツツキノコムシ Cis japonicus Nobuchi 7月15日～7月29日 2頭
 クロオビアシナガゾウムシ Mecyslobus nigrofasciatus Kono 6月17日～6月24日 1頭
 アカコブコブゾウムシ Kobuzo rectirostris Roelofs 7月15日～7月29日 1頭
 ニセコナラシギゾウムシ Curculio conjugalis Faust 8月12日～8月19日 1頭
 シシギゾウムシ Curculio hilgendorfi Harold 8月26日～9月2日 1頭

尾口村三又発電所

- ルイスデオキスイ Carpophilus lewisi Reitter 6月10日～6月17日 1頭
 オオヒメクモゾウムシ Macrotelephae ichihashii Morimoto 6月17日～6月25日 1頭
 カドコブホソヒラタムシ Ahasverus advena Walzl 7月22日～7月29日 1頭
 マダラヒメクモゾウムシ Litargops maculosus Reitter 8月26日～9月2日 1頭

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

小松市内でのイッシキキモンカミキリ採集記録

矢田新平

イッシキキモンカミキリ (*Glenea (Glenea) centroguttata* Fairmaire) は全国でも少ない種で、石川県内でも鶴来町樹木公園での2回の採集記録(入場 登, 1993)しかない。

筆者はこれまで下記のごとく、小松市内の2か所で4頭の本種を採集しているので、報告する。

1994年7月31日	小松市原(林道沢原線)	1♀採集	矢田新平
1995年7月23日	小松市西俣(林道打木西俣線)	2♂採集	矢田新平
1996年7月20日	小松市西俣(林道打木西俣線)	1頭採集	矢田新平

いずれも地上1.5m~3m程のクワまたはクサギの、陽の当たった葉上に静止していたものをネットで採集した。飛翔中の本種も観察したが、飛び方は直線的で他のカミキリ類と変わりはなく、特に人の気配に敏感とは感じなかった。

2か所の採集地点は直線にして5.5kmの距離にあり、環境はほぼ同様にクワがかなり自生している。

本種について種々の御教示をいただき、発表を勧めてくださった井村正行氏に厚くお礼申し上げる。

《 参考文献 》

入場 登, 1993. 鶴来町にてイッシキキモンカミキリ採集. アカハネムシ(3):2.

《やた しんぺい 〒923 小松市上小松町丙192-8》

石川県で珍しいと思われるカミキリムシ2種の記録

井村正行・野中 勝

1. ソボリンゴカミキリ *Oberea sobosana* Ohbayashi

1996年8月4日 白峰村白山釈迦林道(標高約1500m) 1♀確認 野中 勝

金沢市以南の低山~ブナ帯まで広く分布するが、個体数は少なく、釈迦林道では初めての記録と思われる。

2. ヘリグロアオカミキリ *Saperda interrupta* Gebler

1996年8月4日 白峰村白山釈迦林道(標高約1700m) 1♀確認 井村正行

これまでの確実な記録は、同地の1例だけなので(井村正行・他, 1993)記録しておきたい。遅い記録だが、大変新鮮な個体だった。

最後に、釈迦ヶ岳国有林への入林に際し、大変お世話になった金沢営林署の方々に厚くお礼申し上げます。

《 参考文献 》

井村正行・他, 1993. 本県産カミキリムシ科3種の記録. 翔 (100) : 29.

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

《のなか まさる 〒458 名古屋市緑区鳴海町伝治山1-2タウン伝治山9-206》

1996年奄美諸島蝶の記録

細 沼 宏

鹿児島県の奄美諸島へ甲虫採集に出かけた折、見かけた蝶についても積極的に採集したので報告したい。採集日程は7月8日から14日までの7日間で、その間は奄美大島に滞在し、徳之島へは8日、9日、10日の3日間訪れた。

☒ 1996年7月8日 徳之島町金見崎 (徳之島)

ツマグロヒョウモン 1頭、ヤマトシジミ 8頭、アマミウラナミシジミ 4頭

☒ 1996年7月9日 徳之島町山 (徳之島)

ナガサキアゲハ 1♂、ツマグロヒョウモン 1頭、リュウキュウアサギマダラ 1頭
ヤマトシジミ 1頭、アマミウラナミシジミ 8頭

☒ 1996年7月10日 徳之島町金見崎 (徳之島)

アマミウラナミシジミ 2頭、アオバセセリ 1頭

☒ 1996年7月10日 瀬戸内町古仁屋 (奄美大島)

ツマグロヒョウモン 1頭、イシガケチョウ 1頭、リュウキュウヒメジャノメ 1頭、
ムラサキシジミ 1頭

☒ 1996年7月11日 瀬戸内町古仁屋 (奄美大島)

ツマグロヒョウモン 1頭、スミナガシ 1頭、アオバセセリ 1頭

☒ 1996年7月12日 竜郷町赤尾木 (奄美大島)

ジャコウアゲハ 1頭、アカボシゴマダラ 1♀

☒ 1996年7月13日 竜郷町赤尾木 (奄美大島)

ウスキシロチョウ 1♂、リュウキュウアサギマダラ 1♀

《ほそぬま ひろし 〒664 伊丹市北伊丹4-11》

1995年秋八重山採集記

山 岸 善 也

1995年は、幸運にも6月にグアム、7月に北海道、10月に八重山諸島へと旅する機会に恵まれた。そのなかでも、八重山は1974年以来21年ぶりの訪問で、毎日のあくせくした生活を忘れて、久しぶりに採集の喜びを満喫できた旅となった。9月に、頸椎症の治療を兼ねて沖縄へでも行こうかと迷っていたのだが、このとき、蝶研フィールドや日本蝶類学会誌を読み返していたところ、最近八重山で多くの迷蝶が採れていることを知り、どうしても行ってみたくなった。前回は、石垣島と西表島の採集であったが、今回はこれに与那国島と竹富島を加えることにして、早速、早割の航空チケットを購入した。10月27日（金）関空発那覇行と、11月4日（土）那覇発小松行きの切符がかりうじて確保でき、あとは、石垣島、さらに与那国島への切符を予約した。

前回の採集旅行では、出版されて間もない京浜昆虫同好会編の『昆虫採集案内（離島・沖縄編）』を持っていったが、今回は、蝶研出版から、『スーパー採集ガイド八重山編』という、短期間に効率的に採集できそうな便利な本が出ていて、これを持参することにした。前回採集し損なった蝶や、生息していなかった蝶、さらに運が良ければ迷蝶もと、出発前の2週間ほどは、PHP研究所から出版されている『蝶』のカラーハンドブックを見たり、『沖縄探蝶紀行蝶の島』（三木卓著）などを読んで、期待に胸ふくらませる毎日であった。

《10月27日（金）那覇》

夜、那覇に着いてみると以外に寒いのに驚いた。タクシーの運転手さんの話でも例年より寒いとのこと。天気の方も曇がちで少し心配になった。

《10月28日（土）石垣島から竹富島》

朝9時発のエアーニッポンで石垣島へ飛ぶ予定で飛行機に乗りこんだが、通信機の故障ということで降ろされて2時間以上も待たされた。ようやく昼過ぎに石垣島に到着。虫屋が集まるという「なぎさ荘」へ向かった。ここで荷物を置き、採集道具とカメラを持って、竹富島へ渡った。八重山そばを食べて、その後、自転車を借りて走りまわった。スジグロカバマダラ、シロオビアゲハ、リュウキュウムラサキ、といった南国の蝶の翔ぶ姿を久しぶりに見て元気が出てきた。しかし、島の船着き場近くに、「むやみに蝶の採集をするな」という看板が立ててあり、人前で採集ネットを振りにくい。この島は、以前ソテツシジミの発生で有名だったが、最近採れているのだろうかなんて思っていると、しだいに、曇ってきたので4時には、石垣島に引き上げた。宿に帰って、宿帳を見ていると、蝶談会の松田氏の筆による、「与那国にコモンタイマイの写真撮影に出かけたが撮影できな

かった」という記録を見つけた。この宿で知り合った蔵田さんという蝶屋さんが、これからこのコモンタイムをねらって、与那国に入るとのこと。このあと蔵田さんには、与那国で大変お世話になった。そのほかに、クワガタ屋さんがいて、夜になるとひとりで山へ採集に出かけるという。ハブが恐くないのだろうかとその勇氣に感心してしまった。

《10月29日（日）石垣島》

石垣島内をレンタカーで、バンナ岳、万勢山林道、於茂登周辺、川平と回った。クロアゲハの沖縄・八重山亜種、カラスアゲハの八重山亜種をはじめ、シジミ類やコウトウシロシタセセリなどを採集した。

《10月30日（月）与那国島》

与那国に飛び、「ホテル入船」に宿をとった。天気は雨で気分は暗い。こんな時期に与那国くんだりまで来ているのは、虫屋、ダイバー、カメラマン、自称作家といった人達だが、その作家氏によると、与那国沖には石造りの巨大な海底神殿と思われる遺跡が発見されていて、それが幻のムー大陸ではないかということで、調査に来ているという。何とも、にわかには信じ難い話だが、彼はそのために、スタッフと美人女性アイドルタレント（名前は忘れた）を連れてきており、彼女に潜らせて写真を撮るのだという。我々蝶屋も、迷蝶採集という夢を求めて来ているわけであるが、彼らの方の夢にも感心してしまった。雨が上がり、早速、与那国ホンダの西條さんにバイクを借り、出発すると、蔵田さんに出会った。彼に採集ポイントをいろいろと案内してもらい、シロミスジ、クロテンシロを採集した。夜は、蔵田さんに誘われて、西條さん宅におじゃまして話を伺った。6月から毎日のように、コモンタイムを狙って蝶屋がやってくるという。多い日には、イランダ林道のポイントに何本もの竿が並んだというが、この蝶は日が射さないと翔ばないらしい。与那国で採れたアカネアゲハほか多くの迷蝶や、飼育中のオナシアゲハの幼虫をみせていただいた。壁には、松田さんから贈られた蝶の写真が飾られてあった。「明日は晴れるよ」という西條さんの言葉に希望をつないで宿に帰った。

《10月31日（火）与那国島》

まずまずの天気でひと安心。午前中は、イランダ林道で、コモンタイムを待った。3時間ほどいたが、目撃できたのは4回。さっと飛来して、すぐに去ってしまった。ネットを振るチャンスは2回あったが、全て空振りに終わった。しかし、あのグリーン色はずばらしく、ネットを持つ手が緊張で強張ってしまった。こんな蝶の写真を撮るのは極めて難しいだろうと感じた。午後は、ツマベニ、ヤエヤマムラサキ、タイワンシロなどを採集した。4時の便で石垣島へ帰る予定なので、バイクを返却にいくと、西條さんはこの日なんと7頭ものコモンを採ったと見せてくれた。雌は卵を1個しぼりだして飼育すると

いうことで、雄を1頭分けてくれた。自分で採れなかったのはとても残念だが、珍しい蝶を手に入れ、喜んで飛行機に乗りこんだ。

《11月1日（水）西表島》

朝、西表島の太原港に渡り、やまねこレンタカーを借りた。1日5000円程度と安く借りられるが、車体は10年以上使った古いもので、「山道には入るな」とくぎをさされた。新婚旅行じゃあるまいし、蝶採りに来て山道に入るなどいっても、それは無理というもの。早速、南風見田へ向かう。この「はやみた」という所では、かつて迷マダラ類が多数採集されたようだが、いそうにないので、仲間川林道へ向かった。林道の水溜まりには、ミカドアゲハが多数吸水にきていた。ここは蝶の種類も多く、採集してても面白い。タイワンキチョウがやたら多い。竹藪でのシロオビヒカゲ、水場でのリュウキュウウラボシジミ、その他リュウキュウヒメジャノメ、マサキウラナミジャノメ、ヤエヤマイチモンジなども採集できた。このあと、西部の上原にある「カンピラ荘」へ向かった。以前来た時には、東部と西部を結ぶ道はまだ建設中だったが、今ではアスファルトの舗装道路ができており、かつてのような秘境感はあまりない。道路の所々に「やまねこ注意」の標識が見られた。「カンピラ荘」は、2食付4500円と安く、食事もおいしいので、ここに2週間ほど泊まり込んで採集できたら、と思ってしまった。

《11月2日（木）西表島》

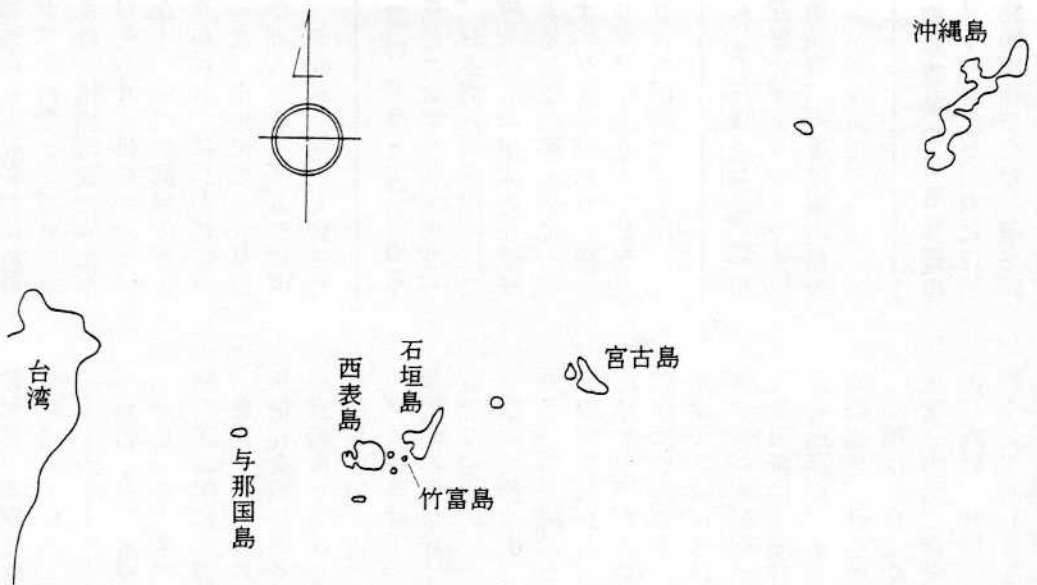
朝食前に祖納へシロオビヒカゲの採集に出かけたが、秋は時期が悪いのか、数は少なかった。9時半頃から浦内でタイワンキマダラを採ったが、他に採集者もいなかったのので、ギフチョウを採集するような気持ちで楽しめた。実際、タイワンキマダラの翔びかたはギフに似ているようにも感じた。午後は、白浜へ向かったが、期待したテツイロビロードセセリは採れず、白浜林道をめざした。途中で車を止めて林道を歩くと、放し飼いの黒牛の集団に出会った。赤いネットを持っていたのが悪かったのか、仔連れの牛が興奮した声を出し、こちらを睨みつけてきた。狭い林道で連れもない私としては、これを無理して通る勇氣はなかった。このあたりの牛は、闘牛にも使われていると聞いていたので、悲しいが、Uターンして引き返してきた。4時頃、再び白浜へ行くと、ほかにも採集者がひとりいたので、テツイロビロードセセリの食草デリスを教えてもらった。しかし、1時間ほどいたが、1頭目撃しただけに終わった。この日の宿は、東部の大富にある「竹盛旅館」なので、島をぐるりと半周しなければならなかった。ちょうど、中間地点にある高那に来た時、午後6時過ぎであたりも薄暗くなりかけていたが、道路の左隅にネコが1頭無心に何かを食べているのを見つけた。車でゆっくり通り過ぎても逃げなかったの、よく見ると、こげ茶色をしたあのヤマネコではないか。びっくりしてカメラを取り出して、少し離れた所から写真を撮ろうと近寄ったところ、あっというまに逃げられてしまった。宿で話

すと、道路ができてから、時々ヤマネコが道路近くに出没するということだ。実は次の日の朝、道路に飛び出してきたクイナを1頭、車で跳ねて、かわいそうにも殺してしまったのだが、こうした鳥がヤマネコの餌になっているのだろう。今回の西表島では、ハブはまったく見かけなかったが、思いもかけないヤマネコに出会えて幸運だった。

《11月3日（金）・4日（土）》

3日は、石垣島へ帰り、その日のうちに那覇へと飛び、4日に小松直行便で帰途についた。

採集期間1週間という比較的短い旅行だったが、それでも、いろいろな蝶に出会えた。迷蝶というほどの蝶は、たいして採れなかったが、迷蝶を追いかける楽しみは十分実感できた。後で知ったのだが、3日には、波照間島でキシタアゲハの雌が採れたということだ。食草もあるようなので産卵していれば、コモンタイマイのように、今年発生するかも知れないという。八重山諸島は、今後も、初記録の迷蝶が期待でき楽しみな所だ。「迷蝶なんて、台湾やフィリピンに行けばいくらでもいて珍しくない」と言う人もいるし、私もこれまでそう思っていたが、日本国内での採集が年々やり難くなってきている現在、迷蝶採集は、蝶屋にとって、国内で残された数少ない夢のひとつなのかも知れない。八重山諸島は、できれば年に1度ぐらい、保養を兼ねて採集に訪れてみたい島々だと思っている。



八重山諸島付近図

《やまぎし ぜんや 〒910-02 丸岡町新鳴鹿2-100 B1-201》

ゴロウの仲間が多数飛来。湖面はヒシやモがビッシリで、ボートを浮かべてもオールがこげなかった。

深夜のベーツヒラタツア

井村隊長率いるメンバー四人、深夜のお宮さんで不信尋問されないようにと、静かにベーツヒラタを搜索。スダジイの脱出口から、触覚がのぞいているが、光を当てるとストと引つ込む。光を消すとまた出てくるが、光を当てるとまた引つ込む。もう少し出ないかとイライラしながら待つが、なかなか出て来ない。辛抱も限界に達する頃、ちよつと出た。すかさず捕まえ、ひっぱり出すと溜息がもれた。

釈迦林道でライトトラップ

八月二十四日、三灯のライトが釈迦道に灯った。例年に無く冷え込みがきつかったが、アルコールの温もりが心地良かった。翌日は天候も良く、キベリやエル、ベニヒカゲに網を振った。

医王山で新種発見か？

新種の可能性が極めて高い虫が、医王山で採れている。三ミリ程のゴミのような虫だが、新種となれば光輝くこと間違いなし。ウエダオルムの次はイムライか。

ベンジャミンで飼育中

今夏の沖縄で各種のマダラチョウに会えた松田氏、ツマムラサキとマルバネリリの早とガジュマルをお土産に持ち帰り、ガジュマルに産卵させた。現在ガジュマルを食い付くし、ベンジャミンで飼育している。

哀れなオオムツボシタマ

材内幼虫でも毎日顔を見ないと気が済まない井村氏、毎日材を削っている。その結果虫も削ってしまい、数はだんだん減っていく。悪い癖だが、仕方がない。しかし他人の材では迷惑千万。自分の材では飽き足らず、中西氏の材も削ってしまった。

鴨池で初記録

タガメや大型ゲンゴロウが期待された鴨池調査だったが、現実はその甘くはなかった。そんな中、県内初記録のゲンゴロウが採れ、にわかには盛り上がった。燈火にビッシリ飛来したガムシやミズムシに混ざり、初記録も飛来していた。

内灘のヒラタクワガタ砂丘とニセアカシアの町、内灘。日本海と河北潟に挟まれ、町そのものが大きな砂丘上にある。この砂丘のてっぺんにオニグルミがあり、種々のクワガタに混ざってヒラタクワガタも採れた。

またまた鴨池で初記録

初記録のゲンゴロウで沸いた鴨池調査、今度は県内初のミズムシが採れた。

博物館運動の署名を提出

九月十八日、石川県に自然史博物館を作る会は、署名四万人分を県議会に提出した。

この署名、半分程が提出間際に届き、本部は汗だくになって整理していた。

例会の記録

八月一日(木)八時から城南管工二階にて開催。

各自、いろいろな思惑を秘め情報交換に熱くなり、八月の身の振り方がここで決まった会員もいたのでは。

ブナ林ライトパーティーは、調整の結果八月二十四、二十五となった。

話題を拾うと、サハリンはスカ、霧ヶ峰のフサヒゲルリ、迷蝶はこれから、ビツカピカのおオトラが8頭、イムナダの次はウエダオルム、今年のオオイチは、青いサワガニ、市ノ瀬のお掃除オジサン、進入許可証は十四日まで、大昆から返事が、ナマリの飛来は零時過ぎ、砂丘のクワガタ等。

参加は谷口(見学)、高田、

生田、中西、富沢、松井、指

田、吉村、井村、徳本、山岸、

野中(TEL参加)の十二人。

表紙デザイン・小幡英典

会員の動き・つやぼの動き

奄美諸島でクワガタ採集

伊丹に単身赴任している細沼氏、長期休暇が取れ奄美諸島へ飛んだ。目的はクワガタで、次にカミキリ、チョウはついでと話していた。

水生昆虫に大忙し

富山の山口氏、水生昆虫界で有名になり、今や氏なくしては水生昆虫は語れないと、各界からお招きがあるらしい。おかげで、陸の虫にネットが振れないとこぼしていた。

蔵王でばったり

光もの大好きオジサンこと、名古屋の野中氏、エサキキンヘリをガツポリ捕って、金沢の秘密兵器に見せびらかそうと考えた。こっそり蔵王へ向かい、半日捜しても収穫は無

く、必死に捜していると、聞きなれた金沢弁が聞こえてきた。ドキリとする間も無く秘密兵器が現れ、エサキキンヘリを見せびらかすのだった。

光ものオジサン来県

八月三日、名古屋の光ものオジサン、ナマリとオオホソを狙って来県。井村邸ではいろいろの採集できたが、現地ではさっぱり。

アサギマダラが鈴なり

八月三日松井氏、釈迦林道でアサギマダラの大群に遭遇。木陰になったヨツバヒヨドリの花ひとつひとつにアサギマダラがぶら下がり、辺りはアサギ色に染まっていた。

クマゼミ捕り物帳

小松昆虫会の国分氏が最初

に声を聞いたのが七月三十日。すぐに小松昆虫館に連絡し、館長の森氏は網を持って出勤したが採集できなかった。その後、国分氏は二度三度と声を聞き、そのつど森氏は出勤し、八月五日ついに御用となった。クマゼミの声は、これまで幾度となく記録されているが、県内で採集されたのは初めて。

高田君、PHSで武装強化

居場所不明で連絡が付かないのは学生の常として、高田君も例外では無かった。それが元で、おいしい採集を棒に振る高田君だった。最近院試を控えながら、バイト、ムシ、♀関係と多忙なスケジュールをこなす必要に迫られ、強力アイテムで武装強化を計った。050163317654

八月十七・十八日鴨池調査

セミが賑やかになり、調査も中盤に入った。燈火の賑わいは七月程ではないが、ミズムシや小さなガムシ、ゲン

翔

NO. 122

1996年10月1日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

〒920-01 ☎0762-58-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜8時から

TEL参加もOKです(0762-44-3318)



会員の動き・しゃばの動き

目次（122号）

山口英夫：石川県でシマゲンゴロウ発見	1
井村正行：石川県未記録のマルケシゲンゴロウの記録	1
松井正人：訪花性誘因器で採集した石川県初記録の甲虫	2
矢田新平：小松市内でのイッシキキモンカミキリ採集記録	3
井村正行・野中勝：石川県で珍しいと思われる カミキリムシ2種の記録	3
細沼宏：1996年奄美諸島蝶の記録	4
山岸善也：1995年秋八重山採集記	5
編集部：会員の動き・しゃばの動き	10